

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年4月24日（土） 10時00分 ～ 11時00分
【場 所】 琴芝ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 琴芝地区コミュニティ推進協議会 琴芝地区自治会連合会会長 : 井上 博己 琴芝地区社会福祉協議会会長 : 石原 孝行 環境衛生連合会琴芝支部支部長 : 渡壁 正英 宇部市婦人連絡協議会会長 : 藤井 恵子 琴芝地区地域活動連絡協議会会長 : 福重 明美 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課 公共施設マネジメント課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○ふれあいセンターの老朽化対策等について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・ふれあいセンターの老朽化が進み、セメントが剥離し危険なところがある。早急に対応してほしい。 ・トイレを和式から洋式に改修してほしい。また、トイレの入り口にドアはあるものの、中の様子が見える状態のため、全面ドアをつけてほしい。 【地区社会福祉協議会会長】 ・トイレもバリアフリー化してほしい。 【市長】 ・築42年が経過し、耐震性がない。「宇部市公共施設等個別施設計画」では、近隣の学校施設内に機能を移転する方向で検討している。まだ決定ではないが、地域住民のかたとしっかりとご相談しながら進めていきたい。 ・トイレの洋式化等については、緊急性のあるものから対応する。 ・トイレのドアの全面化については至急検討する。

○ICT等のデジタル機材の活用・研修、人材の確保について

【コミュニティ協議会会長】

- ・センターに配備されたリモート会議用の機材を有効活用するためには、地区住民のスキルアップが必要である。そのための研修講師は、市が派遣してくれるのか、それとも、地区で講師を依頼しなければならないのか。

【婦人連絡協議会会長】

- ・琴芝ふれあいセンターでリモート会議ができて、他のふれあいセンターに使用できる人がいなければ、現実的には活用ができないことになる。人材確保等、早急に対応してほしい。

【市長】

- ・今年度、地域活動でのICT活用を支援するため、研修会等を実施できる予算を確保した。活用していただきたい。
- ・ふれあいセンター内のWi-Fi環境に問題がある場合は、すぐに対応したい。

○ふれあいセンターの公用車について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・ふれあいセンターに配備されている公用車が老朽化している。公用車の更新の目安を聞きたい。

【市長】

- ・公用車の更新は、基本的には維持管理コスト等を鑑みて検討している。使用年数が約20年ということだが、いざというときに必要なものであるため確認する。

○地区の見守りについて

【社会福祉協議会会長】

- ・コロナ禍で、地域の高齢者への見守りや対面での福祉活動が難しくなっている。

【市長】

- ・市においても、地域の方の活動を支援をしているが、課題があれば意見をお寄せいただきたい。

○ふれあい広場の遊具について

【社会福祉協議会会長】

- ・ふれあいセンターの敷地内に児童公園があるが、遊具がブランコと鉄棒の2つだけと少なく、遊具を増設してほしい。

【市長】

- ・遊具については、各地区の公園に順次整備をしている。持ち帰り検討したい。

○大雨時の通学路の安全対策について

【社会福祉協議会会長】

- ・大雨の時に水路から水が溢れる危険な場所がある。年に1度あるかないかではあるが、子どもたちの足がすくわれるような危険な状況になることもあるので、対応してほしい。

【市長】

- ・担当部署に現場を確認させた。いろいろな水路が交わる場所ということもあり、抜本的な改修をするには多額の予算が必要である。子どもたちには、学校を通じて通学路として使用しないよう指導しているが、一般の方も使用するため整備していく。

○「未来公園（3世代公園）」の整備について

【環境衛生連合会支部長】

- ・公園に、子ども用・大人用の遊具や、高齢者向けの健康遊具を設置し、地域住民が気軽に集える「未来公園（3世代公園）」を、神原公園で実験的に整備してみてはどうか。

【市長】

- ・子育て世代は、駐車場と遊具がある公園の整備を希望されている。宇部市にはないため、現在、空港に隣接する芝生公園に、1億円規模の遊具を設置する準備を進めており、再来年には完成する予定である。併せて、公園の利用者のために、近隣の市有地を駐車場に整備したいと考えている。この公園を子育て世代が集える公園の拠点の1つとして整備していきたい。
- ・健康遊具については、各地区からも要望があるため順次整備していきたい。

○防災公園の実現

○宇部市未来都市 SDGs の推進について

【環境衛生連合会支部長】

- ・大規模災害時の防災拠点として、空港付近に防災公園を整備してみてはどうか。
- ・3世代の住民が、楽しく健康にそして仲良くなるための取り組み、SDGs 未来都市 宇部の実現に向けて、市内の公園を「防災公園」＋「3世代公園」として整備することを施策に取り入れるよう提言したい。

【婦人連絡協議会会長】

- ・宇部市には SDGs を教育する機関がなく、市民に啓発されていない。琴芝地区では、昨年度 SDGs について地区民に啓発したため理解されていると思う。SDGs について言葉とその意味を理解することが必要と思うので、SDGs 推進センターに講師を配置してほしい。

【市長】

- ・今後、すべての公園に防災機能を付加するべきだと考えている。例えば、蓋を開けるとかまどになるベンチなど、様々な機能をもった遊具・備品を各地の公園に整備する。

空港公園が防災公園として適しているかは、高波等の防災対策を見極めて検討していきたい。また、ふれあいセンターに大型のプロパンガスを設置し非常用電源を確保する等、防災対策を進めていきたい。

- ・SDGsの教育は、小中学校ではかなり進んでいる。一般の方々がSDGsを意識しているかという点はまだまだだと認識している。第5次総合計画においては、全ての施策にSDGsのどの目標が該当するのかが示す予定であり、市民の皆さんにも、意識してもらえるよう進めていきたい。

○学校選択性の改善、推進について

【環境衛生連合会支部長】

- ・現在、琴芝小学校の子どもたちは、上宇部中学校または常盤中学校のどちらかに進学することとなっており、ほとんどの子どもは上宇部中学校に進学する。常盤中学校に進学すると小学校からの同級生が少ないため、いじめ等の問題が起こることがあるようだ。親が学校を選択するのではなく、「琴芝小学校の子どもは全員上宇部中学校に進学する」と市で決めてほしい。地域によっては選択校がない場合もあり、公平性に欠けると思う。

【市長】

- ・宇部市の小学校区は偏っていると感じており、抜本的に見直す必要があると考えている。大人の事情で子どもたちを分断させてはならない。再編にあたっては、コストではなく子どもの教育環境を整えることを第一とし、オンライン授業など新しい技術を活用しながら進めていきたい。先日、見初地区から小学校区の再編について改めて提言をいただいた。再編の中心は、この琴芝エリアだと思っているため、地区の皆様にご相談させていただきたい。

○社会教育について

【婦人連絡協議会会長】

- ・宇部市では、数年前に社会教育課がなくなり、コミュニティスクール推進課となった。社会教育課は、県や他の市町にはある。婦人会は社会教育を推進する団体であるが、社会教育指導員も不在となったため相談できる人がなくなった。

【市長】

- ・社会教育は重要である。持ち帰って確認する。社会教育に携わる皆様の活動がより良いものになるよう体制を整えていきたい。

○こどもの遊び場所について

【地域活動連絡協議会会長】

- ・琴芝地区は、図書館、病院、学校等、施設が整っている。神原公園ではプレーパークも開催され、駐車場もあり、晴れた日は子どもの遊び場としてとても良い。しかし、雨天時は、子どもが遊ぶ場所がない。多世代ふれあいセンターに雨天時の子どもの遊

び場を整備してほしい。

- ・市外には、下関ふくふく館のような「有料のこどもの遊び場」がある。宇部市でもそのような施設を整備したらどうか。無料が必ずしも良いとは限らない。親たちは、費用負担をしても安全な遊び場があればよいと思っているのではないかと感じている。

【市長】

- ・宇部市では、「子どもプラザ」の整備を検討しており、当初、旧山口井筒屋宇部店（トキスマ）に整備する予定であったが、現在、旧山口井筒屋宇部店については、その建物をどうするかゼロベースで検討中である。

子育て拠点となる「子どもプラザ」は必要と考えているが、旧山口井筒屋宇部店に整備するのがよいのか、という点についても検討する必要がある。また、築 30 年が経過した図書館のリニューアルや解体を予定している福祉会館の跡地の活用など、今後の中心市街地全体の方向性を考え、すべてまとめた上で案を提出したい。子育て世代への取り組みは、拡充しなければならないと考えている。

○市の活性化について（SNS等の活用、市のキャッチコピー）

【環境衛生連合会支部長】

- ・SNS等を活用した情報発信をしっかりと、市が注目されるようにしてほしい。
- ・「3K運動をしよう」というキャッチコピーを提案する。環境、観光、健康の3つのKを施策の中心として取り組めば良いと思う。

【市長】

- ・先日、ふるさと大使である宇部市出身の歌手の方が他の有名人とチョークンを持ってSNSで情報発信され、大きな反響があった。SNSや宇部市出身のタレントの方を活用した宇部市のPRに取り組みたい。
- ・健康、環境、観光にもしっかりと取り組んでいきたい。

○ときわ公園の活用について

【環境衛生連合会支部長】

- ・ときわ公園を中心とした施策を展開してみてもどうか。

【市長】

- ・ときわ公園には、サテライトオフィス、テレワークセンター、研究の実証フィールドとして活用したいなど、様々な声が寄せられている。宇部市では、5月1日に新たに「ときわ公園実証フィールド活用プロジェクトチームを」立ち上げた。コロナ渦で生まれた「新しい生活様式」のニーズを取り込み、ときわ公園の新たな可能性を追求していく。

○防災対策4助の提案について

【環境衛生連合会支部長】

- ・防災対策3助（自助・共助・公助）に「ご近所」の近助をプラスし、「防災対策4助」

を施策に取り入れることを提案する。近助を入れることで、「災害に強い宇部」、「コミュニティに強い宇部」になることができる。

【市長】

- ・「近助」は「共助」の1つだと思う。避難が難しい高齢者や障害者の方々が避難しやすい体制を整えることが大切である。現在、避難計画は、民生委員の皆様や地域の保健師が一緒になって計画を立てているところである。今後はソフトの部分も強化する必要があると考えており、例えば、力をあまりかけずに高齢者の避難誘導を介助できる方法を理学療法士の方から学ぶなどして、地域の皆様と高齢者が一緒に避難できるような体制を整えられるようにしたい。

○宇部線の活用について

【地域活動連絡協議会会長】

- ・JR 宇部線の活用はどうか。

【市長】

- ・JR 宇部線の活用は大きな課題であり、活用についてはJR と進めている。もうひとつの課題がバスである。また、コミュニティタクシーの活用や、地域内交通の充実を図りたいが、うまくいっている地区が少ない。どこまで寄り添えば利用してもらえるのか考えていきたい。

○厳しい財政運営について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・これから財政が厳しくなることが目に見えている。特に歳入は減ってくる。それに対して、市民からの要望・意見は非常に強くなる。市長としてどう対応していくのか。

【市長】

- ・今からの時代、必要なものは何かということをしっかり見定めて、市民の皆様に影響を及ぼさないところで節制をしていかななくてはいけない。「公共施設等個別施設計画」を策定し、優先度の高いものから整備していくことで、今後 10 年間で 94 億の財源を捻出した。また、令和 3 年度当初予算編成においては、財源見直しを徹底的に行い、5 億 2 千 600 万の財源を捻出した。

今年度、新たに「行財政改善協議会」を立ち上げた。民間委員に各事業をチェックしていただく。前向きに未来を見据えながら、何が必要か、考え取り組んでいかないといけない。皆様にもご協力をお願いしたい。

- ・「公共施設等個別施設計画」において、サンライフ宇部は、廃止・売却の方向で検討している。利用者の皆様には他の公共施設の利用を誘導したい。

○今後のふれあいセンターのあり方について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・今後、ふれあいセンターは統廃合されていくのか。管理運営は、指定管理になるのか。

現時点の考えを聞きたい。

【市長】

- ・デジタル化が進めば、市の手続きをふれあいセンターで行う必要はなくなるが、ちょっと相談できる、利用できるセンターは必要だと思う。ただし、各センターの位置や数は、今後の小学校区や自治会のあり方も含め検討しなくてはならない。民間の施設や場所の活用も検討の余地があると思う。他の地区では、地区内の自治会の再編をしてほしいという意見があった。拠点となる施設をどのようにしていくのか、議論をすすめていかなければならないと思う。

【市長】

- ・様々な貴重な意見をいただき感謝したい。
- ・ご意見、ご要望については、第5次総合計画の参考にさせていただく。
- ・引き続き、市政の発展のためにご協力をお願いしたい。